

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 生涯学習の充実
 基本事業 生涯学習機会の充実

事業名 **読書普及活動事業**

[0454]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	情報図書館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 市民
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) ・おはなし会を通じた幼児・児童への読書に関する興味の喚起。 ・おはなし会、人形劇などを地域活動を行うボランティア団体の活性化。
	(事務事業の内容、やり方、手段) ・おはなし会、科学教室、各種講演会などの開催。 ・ボランティア支援のための講習会等の実施。
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	市民	人	123,054	121,987	122,138	122,138
対象指標2						
活動指標1	図書館主催おはなし会など開催回数	回	289	299	303	320
活動指標2						
成果指標1	読書普及事業の参加人数	人	3,929	4,032	3,964	5,500
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	191	212	403	513
正職員人件費 (B)		千円	1,672	1,660	1,612	1,629
総事業費 (A) + (B)		千円	1,863	1,872	2,015	2,142

費用内訳	
22年度	報償費 317千円、需用費 86千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

インターネットの普及や情報メディアの発達により子どもの読書・活字離れが進んでいる現状で、市民の読書意欲の向上や図書館利用者の拡大を図るため、就学前児童等への読み聞かせの会や講演会などの多面的な事業を展開することで、将来の読書人口の拡大につなげるためにも公的機関が行う意義がある。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

子どもへ読み聞かせ等を行い読書普及活動を行うことは、生涯学習機会の充実に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

ボランティア活動の活性化や学校における読書事業などとの連携。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

学校におけるおはなし会開催団体との連携を深めることにより幅広い年齢を対象とした事業などを実施し、ボランティア団体の活動がより活発化される。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

有償ボランティアであるが、事前の練習、当日の出演やスキルアップのための研修会の参加などを考慮すると必要最低限経費であり、受益者負担を課す性質のものではないため困難である。